

奈良市学校規模適正化検討委員会（平成 25 年度第 3 回） 会議録

1 日時 平成 26 年 3 月 26 日（水） 午前 10 時～11 時 30 分

2 場所 教育センター 8 階 多目的室

3 出席者

【委員】 重松敬一委員、岡毅委員、井上芳恵委員、竹村健委員、
岡田和大委員、瀬古口浩之委員、南出藤作委員
(欠席 古山周太郎委員、畑中康宣委員、松村広美委員、
上山勝己委員)

【市職員】教育総務部長、学校教育部長、教育総務部次長、教育総務部参事、
子ども未来部参事、教育総務課長、保健給食課長、地域教育課長、
子ども政策課長、教育政策課長

【事務局】教育政策課職員

4 会議事項

- (1) 中学校区別実施計画（案）「後期計画」について
※全て公開で審議。（傍聴人 0 人）

5 配布資料

- 中学校区別実施計画（案）「後期計画」について
- 児童生徒数の推移
- 平成 25 年度推計（小学校）（中学校）

6 議事の要旨

- 事務局が、案件について説明。
- (1) 柳生・興東小、柳生・興東中学校の交流学习
- 普段少人数の学級で学習する柳生小学校・興東小学校と、柳生中学校・興東中学校で集団教育の機会を増やすため、交流学习を実施した。柳生・興東小学校は 4,5,6 年生（41 名）が 1 月 17 日と 2 月 20 日に、柳生・興東中学校は 1,2 年生（30 名）が、1 月 22 日と 2 月 4 日に交流学习を行った。学校、教員には、準備・企画・運営において格別の協力をいただいた。
 - 中学校は木剣体操を教えあった。球技も普段は男女混合だが、今回

は男子のみ、女子のみでできた。小学校は集団で運動や授業をおこなった。授業では集団での話し合いなどのグループ活動を行った。また、柳生小学校5年生は男子4人であるので聞き役が不在の発表ばかりだったが、今回は同学年の児童に発表を聞いてもらうという体験ができた。

- 交流学習後のアンケートで、中学校の生徒が「とても楽しかった」と答えた割合は1回目の48%より2回目の79%の方が大幅に増加した。「あまり楽しくなかった」と答えた割合は0%だった。「他校の人たちと交流し、協力できてよかった」という意見もあり、子どもたちは交流学習の中で友情を深め、普段できない経験への刺激を受けているようだった。教員については、準備や運営面に対して負担を感じている意見もある一方、子どもたちにとって交流学習は有効であると評価する意見もあった。
- アンケートで小学校の児童が「とても楽しかった」と答えた割合は1回目の76%に比べ2回目は82%まで増え、「あまり楽しくなかった」と答えた割合は中学校と同様に0%だった。子どもたちは普段よりたくさん的人数で学習する喜びを感じているようだった。教員も、集団での学びの環境を与えることにより、子どもたちの表情が豊かになっている部分を評価していた。
- 交流学習は来年度も学校の協力を得ながら定期的にも実施していく方向で考えている。

(2) 中学校区別実施計画(案)「後期計画」について

- 前回の検討委員会では、「保護者の意見を集約する」「協議会という形の他にも新しいアプローチが必要」「地域の皆様に正確な情報を早く伝えるために見通しをもった計画を示していく必要がある」などが主な意見として挙げられた。
- 学校規模適正化の基準は、基本的に小学校は11学級以下、中学校は8学級以下の過小規模と小規模を対象とする。小規模まで対象にする理由は、今後の児童生徒数の推移、小学校でのクラス替えの必要性、1学年に教員が複数名いることによる連携の必要性の3点である。地理的な条件で統合再編が難しい場合や、今後人口が増加する見込みのある場合、以前に統合再編を実施した場合については、後期計画において対象校からは外している。大規模は減少していく見込みなので除外している。
- 西北部ゾーン
 - ・平城西中学校区

右京小学校と神功小学校は、平城西中学校と1小1中の隣接型小中一貫教育の実施を視野に統合再編を検討する。右京小学校は小規模、神功小学校も過去と比べて児童数が減少している。平城西中学校も現在は適正規模だが減少してくると予想。神功小学校と平城西中学校は隣接しており、右京小学校と神功小学校は、約1kmの距離にある。この中学校区において、小中一貫教育を充実させる。

- 平城東中学校区

朱雀小学校、左京小学校、平城東中学校は適正規模。佐保台小学校は過小規模であるが、住宅開発の動向にあわせて、児童数の推移を見守ることとする。約200戸の住宅開発で学年5人程度増えると思われる。

- 富雄中学校区

富雄北小学校と富雄中学校は大規模であるが、今後、児童・生徒数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童・生徒数の推移を見守ることとする。

- 登美ヶ丘北中学校区

登美ヶ丘小学校、登美ヶ丘北中学校は適正規模。東登美ヶ丘小学校は大規模であるが、今後、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

- 二名中学校区

二名小学校、二名中学校は適正規模。青和小学校は大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことや、今後、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

- 伏見中学校区

あやめ池小学校、伏見中学校は適正規模。伏見小学校、西大寺北小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことから児童数の推移を見守ることとする。伏見中学校区ではハイツなどの住宅開発が行われ、若い家族が入居している。

- 富雄南中学校区

富雄南中学校は適正規模。富雄南小学校、三碓小学校は大規模であるが、今後、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

- 登美ヶ丘中学校区

すべて適正規模。

- ・京西中学校区

伏見南小学校、京西中学校は適正規模。六条小学校は今後も大規模な状況が続くが、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

- ・富雄第三中学校区

富雄第三中学校は小規模だが、富雄第三小学校との施設一体型の小中一貫校として、特色ある学校づくりを推進していく。

- 中部ゾーン

- ・都跡中学校区

都跡小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことから、児童数の推移を見守ることとする。

- ・平城中学校区

平城小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことから、児童数の推移を見守ることとする。

- 中部市街地ゾーン

- ・飛鳥中学校区

飛鳥小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことや、児童数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

- ・若草中学校区

佐保小学校、若草中学校は適正規模。鼓阪小学校、鼓阪北小学校は小規模だが、今後の児童数の推移を勘案しながら、統合再編を視野に入れて検討する。両校ともに 100 人程度まで減少が予想される。

- ・春日中学校区

大安寺小学校、春日中学校は適正規模。済美南小学校は小規模であるが、今後、児童数が増加すると予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

済美小学校は大規模であるが、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

- ・三笠中学校区

大宮小学校と佐保川小学校は適正規模。椿井小学校は小規模であるが、専門的な聴力検査が行える防音室の設備が整っており、市内全域から通学できる難聴学級 5 名と難聴通級指導教室（きこえの教室）10 名が設置され、奈良市の難聴児教育のセンター的役割としての充実を図るため、現状を維持する。

大安寺西小学校、三笠中学校は今後も大規模な状況が続くが、

適正規模を大きく上回らないことや、児童生徒数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童生徒数の推移を見守ることとする。

➤ 南部ゾーン

・都南中学校区

帯解小学校、精華小学校が小規模。特に精華小学校は過小規模が継続し、複式学級が発生しているため、集団活動ができる人数を安定的に確保し、教育環境を整える観点から、平成 27 年 4 月を目途に帯解小学校との統合再編を検討する。

➤ 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーン

・田原中学校区

田原小・中学校は今後も過小規模が継続すると考えられるが、他学校の統合を検討しても距離的に問題があるため、施設一体型の小中一貫教育の充実を図りながら、特認校制度等の導入について検討する。ただし、保護者や地域住民からの要望があれば、統合も検討する。

・柳生中学校区・興東中学校区

柳生中学校と興東中学校はいずれも過小規模が継続しており、集団活動ができる人数を安定的に確保し、教育環境を整える観点から平成 27 年 4 月を目途に統合再編を行う。統合先は、中学校仕様に改修した現興東中学校とする。

柳生小学校と興東小学校については、今後も児童数の推移を見守っていく。

この地区については、昨年 12 月の聞き取りで約 8 割の柳生地区保護者の皆様から統合に前向きのご意見を頂いたが、検討協議会の開催も含めて柳生地域としてご理解を示していただくまでには至っていない。後期計画では、統合時期を平成 27 年 4 月と明確に示して統合再編を図っていきたい。

・月ヶ瀬中学校区

月ヶ瀬小・中学校ともに過小規模であるが、三重県に近い位置にあり、他のゾーンとは地理的に離れていることから、他校との統合再編は困難な状況にあるため、今後は小中一貫教育を推進するとともに、学校の活性化や特色ある学校づくりを進めていく。

・都祁中学校区

並松小学校・吐山小学校・六郷小学校は過小規模が継続するため、集団活動ができる人数を安定的に確保し、教育環境を整え

る観点から、都祁小学校を含めて統合再編する。統合先は、都祁小学校又は都祁中学校の敷地内を候補として、1小1中の小中一貫教育を検討する。

認定こども園と中学校を中心に6km以内にある4つの小学校をひとつに再編する。幼・小・中をひとつにして教育環境を整えていくことを目指す。

並松小学校、吐山小学校、六郷小学校は、ともに現在50名前後の6学級だが、吐山小学校、六郷小学校においては、来年度以降に全校児童数が40名を切ると予想されるため、早急に都祁小学校を含めた統合再編を検討したいと考えている。

都祁地域については、2～3月に4小学校と認定こども園都祁保育園で保護者説明会を行った。その際に頂いた意見を全体的にみると、現在の環境を否定はしないが統合再編もやむを得ないと考える保護者が比較的多いように感じた。現在のままの方が良いという意見には、少人数なので先生が目が行き届いている、地域の中心である学校が無くなるのもっと人が減ってしまうといったものがあったが、その一方で、人間関係の固定化や、少人数すぎて苦しい、認定こども園から小学校に上がる時に友人と離れてしまい子どもがかわいそう、人数が減っていくため遊びが広がらないといった問題もあり、比較的統合賛成派が多い。保護者説明会の後にアンケート調査を行った。現在集計中だが、こちらも統合賛成派が多いように思われる。ただし、通学方法の安全確保が条件として挙がっている。

- 案件について、委員が意見交換。

- 西北部ゾーン

重松会長☞ 佐保台小学校の経過も含めて推移を見守る計画が提示された。

瀬古口委員☞ 右京小学校、神功小学校と平城西中学校は連携型小中一貫教育パイロット校としての取組がなされている。推進する中で方向性が見出せるのならば、地域住民や保護者との話し合いのもとで進めていけば良いと思う。その他の学校については全体的に推移を見守る。私立中学校への進学もあり、公立中学校への進学率を考えていく上で大事であると思う。佐保台小学校が住宅開発で増えるのは朗報だろう。

重松会長☞ 人口の減少だけでなく私立との関係も原因となる。公立中学校の人数が減るとさらに私立へと人が流れていくのではないかと、ということもふまえて状況の理解が必要だ。

井上委員☞ 平城西中学校と右京小学校、神功小学校が小中一貫の実施を視野に統合再編をするという案については後期計画で初めて出てきたものだが、地域の方への意見聴取は後期計画を出した後に行う予定なのか。

→ [事務局] 正式な通知はまだ出していない。決定次第、通知する予定である。実際の聞き取りは後期計画を出した後になる。子どもが減っていることに対して地域に危機感があるのは事実。数名の代表からは、統合再編した方が良いのではという意見も出ている。

→ [教育政策課長] 平城西中学校区については、現在1中2小だが、当初から、いずれ減っていくので一緒にすれば良いという地域の意見があった。離れた立地での複数小学校と1中学校という一般的な小中一貫モデルのパイロット校として進めていた。これからは、魅力あるまちづくりという観点とも絡めて市として何か方策を立てていくべきだと考えている。

➤ 中部・中部市街地ゾーン

重松会長☞ 全体的にこれまで通りで経過を見守る計画となっている。鼓阪小学校、鼓阪北小学校について後期計画では新たに統合再編が提案された。椿井小学校は特色を今後も伸ばしていきたいとのこと。

岡田委員☞ 椿井小学校が特色あるというのはわかるが、児童数が少なくなっても難聴設備があるから統合しないという方向は、子どもにとって本当によいものなのだろうか。

→ [事務局] 難聴の生徒は全体からして1割にも満たない。大切にしていきたいが、今後検討が必要だと思われる。ただし、現段階では現状維持していく。

→ [教育政策課長] 椿井小学校は交通利便の良い駅の近くにあるので、きこえの教室は奈良市全域の子どもが通えるように充実させながら進めるという計画が当初はあった。今後は、きこえの教室に通ってくる子のための学校と、元々椿井小学校に通っている子のための学校という二つの側面から、長期的な視点からのさらなる検討が必要となってくる。

重松会長☞ 子どもの減少が止まるわけでないということも含め、引き続き検討が必要だろう。後期計画が終わった平成29年度以降における、特認校制度など地域が有効活用できるモデル校としての役割を含んだ計画について意見を伺いたい。

南出委員☞ 鼓阪北小学校が出来た当時、私は佐保小学校に在籍していたが、鼓阪小学校の教員も佐保小学校の教員も新しい教育に向けて進めてきた。

小中一貫の若草中学校区は、東大寺があるので世界遺産学習を積極的に推進している。地域の皆様や教員には、鼓阪小学校も鼓阪北小学校も奈良市や奈良県の歴史の中心地であるという認識があり、地域とのつながりも強い。子どもの推移を見守るのがベターだろう。

重松会長☞ 鼓阪幼稚園に園児がいなくなると伺っている。それも含めて検討する必要があるだろう。

▶ 南部ゾーン

重松会長☞ 以前より検討されていた帯解小学校、精華小学校について、今回平成 27 年 4 月に統合再編するという具体的な計画が示された。このことについての意見を伺いたい。

岡委員☞ 進捗はどうなっているのか。時期を明示した以上、そこに向かって進めていかないと信頼を失う。柳生は動いている印象だが、帯解・精華地域はどうなっているのか。

→ [事務局] 帯解・精華地域の状況としては、精華地域では 4 月に検討協議会を開催するというご連絡を頂いている。

→ [教育政策課長] 昨年末の社会福祉協議会は、正式な適正化の会議の場ではないのでどこまで意見を吸い上げられているのかを完全に把握しているわけではないが、地域の方からは、学校を残してほしいという意見よりも、統合したときの通学手段をどうするのかという疑問の方が多く出た。これについてはバス通学を検討していると回答した。4 月に開催する検討協議会で様々な意見が挙がると思うが、市としては来年度 4 月に向けて進める方針を説明したいと考えている。平成 27 年 4 月には帯解保育園と帯解幼稚園が統合再編され認定こども園として開園する予定であり、精華幼稚園は入園者がいないため休園となる。精華地域に住む幼児が将来的に認定こども園へ通うための通園方法についても、今、小学校の統合再編を進めておけばスクールバスに乗って認定こども園へ通うことができ、地域にとっても利便性が向上することもふまえて、平成 27 年 4 月に認定こども園と小学校が同時に開園・開校できるよう説明していきたい。

竹村委員☞ 精華では抵抗があるだろう。精力的にすすめようとしても厳しいところもある。実際に話を聞くと、学校がなくなる寂しさのみが表に出ているように感じる。話し合いをするにしても、反対するための方策ばかりを考えているのが問題だろう。思い切った進め方をする必要かもしれない。しかし、クリーンセンターの問題もあり、市は地域に悪い話ばかり持ってくるという意識になってしまい、冷静な考え方ができなくなって

いる部分もあるようだ。市は、もう少し子どものことを考えて頑張っていたきたい。

重松会長☞ 幼稚園や保育園について何か話を聞いているか。

竹村委員☞ 新しく建設された帯解幼稚園には駐車場がないという問題が出ているが、仕方ないと言わずに何とか考えて欲しい。

重松会長☞ 具体的な期日を明示したという以上は、協議会を立ち上げることも含めてお互いの共通理解を進めることが大切。何よりも子どもへのより良い教育の質を前提に、共通理解を図っていく必要がある。原案は今回示したような形で、具体的に27年4月を目途に進めるということをお願いしたい。

➤ 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーン

重松会長☞ 田原小中学校は特認校制度も視野に入れ、できるだけ多くの方に奈良市から通学していただくために有効活用できないか。柳生中学校・興東中学校は平成27年4月を目標に統合を進めていく。月ヶ瀬小中学校は建物一体型の小中一貫校にする。都祁地域は4小学校統合を具体的に進めていく予定となっている。

竹村委員☞ 都祁は若者が少なくなっているのも、年配の交流の場として学校を残してほしいという意見が出ている。市長が学校施設を売却したいという話をしていた辺りが気になっている。学校の給食に地元の米を買い取って使ってもらっているのはありがたい。それを市内まで広げられないかという話を聞いたが、現段階としてそれは難しいと返答した。統合再編後の学校をどう使うのかについては、地域の方の気持ちを汲んで幅を持たせて考えるべきだと思う。

重松会長☞ 統合再編は学校だけの問題ではなく、奈良市全体の地域の活性化の施策と連携が必要だ。そういった地域の皆様にもこの会議に参加してもらって住民感情を問うことが必要かもしれない。年配者のための施設ばかりでよいのか、若者を呼び込むためのものも含めて、全体的な施策が必要となってくる。

岡委員☞ 都祁地区は正式な話はまだしてないのか。これから各小学校に正式に話をしていくということなのか。

➔ [事務局] 市としてどのような考えをもっているかということについては、既に伝えている。今までは中期計画の段階。教育環境をどう思うかという意見を聞いただけで、統合についての賛成反対を聞きに行ったわけではない。

→ [教育政策課長] 説明会では集団で学びあう教育の大切さや、今後子どもが減るといった説明を通じて、明確に言葉にはしていないが、市としては4小学校を統合したいという意図を保護者が捉えられるように伝えた。子どもの教育環境を考える場において集団教育が大切であるということや、今後子どもの数が減っていくという説明をする中で、4小学校を統合したいという市の意図をどの保護者も感じている。それを都祁小学校や都祁中学校の場所で行うことは明言していないが、保護者の憶測としてニュアンスを捉えている。もし統合再編を進める場合、都祁小学校や都祁中学校の校舎に全員が入るのは現状では無理なので増築が必要である。工事のことなどを考えると、地域に説明してから少なくとも3年はかかる。まずは地域の皆様に説明をして、ある程度の見通しがたってから進めていく。保護者の意見は小学校によって温度差がある。1校は半数が反対だが、それ以外は何とかして欲しいという思いを訴えている。保護者の思いとして、学校教育にはある程度の規模が必要という意識はある。地域の皆様も仕方ないという意見が大半だが、1地域のみ学校を無くすことに対して明確に反対しており、やはり温度差がある。

瀬古口委員☞ 保護者の意見を積極的に吸い上げられていてとても良いことだと思う。その結果をもとにどう進めるのか具体的に聞きたい。交流学习のように保護者、子どもの喜びが増えることが必要だ。柳生の一部地域は月ヶ瀬中学校に近いため、通学への不安を抱いていると聞いたことがある。この部分について行政としてきちんとケアしていくことが前進への近道だ。6キロ以上も離れた学校をひとつにするということには、特に小学校で通学へのネックがある。統合再編の計画と並行して、通学についても提案していく必要がある。

重松会長☞ 再編への課題が見えてきた。子どもの学習環境を保障していけるのかということを実際に検討していきたい。これまでそれぞれのゾーンごとに検討してきたが、平成28年度の全体計画終了からしばらく様子を見るというわけにもいかない。後期計画に加えて後期計画後に対する意見もあれば伺いたい。

井上委員☞ いくつか少しずつ進展していると説明頂いたが、地域の方との検討や合意についてはノウハウを蓄積して今後に生かしていく必要がある。今後出てくる統合移転の事例が、その後どのように変化しているか(特に学校が無くなった地域が衰退していないかどうか)を把握する必要がある。統合再編後の地域振興や学校がなくなる地域の活性化、地域の高齢化などについての施策もあわせて計画していく必要がある。今回の統合で成功した先進事例という形で今後紹介していくことができれば、他の地域も進め

やすくなる。先ほども出ていたが、もはや学習環境だけの問題ではなく、教育の枠にとどまらずに市の総合的な計画の中に位置づけていくべきではないか。住宅開発による人口の増加などの民間の土地開発に学校の設置が左右される状況では計画的な配置は難しい。長いビジョンで人口や開発について考え、それに伴って教育環境の配置も考えていく必要がある。

重松会長☞ 現在、日本全体がサイズダウンしている。おそらく推計よりも人口の減少が加速する。教育の問題の中から、市全体のあり方をふまえた総合的な計画の検討が必要である。

岡委員☞ 先日テレビで原発事故後の福島についての番組をみたが、そこでの状況とよく似ている。年配の地元住民は帰りたいたいと思っている一方、若い家族は帰るのが怖いという思いがあっても、そのことを言いにくい。こちらでも当事者である保護者が自分の思いを言える雰囲気をつくっていくことが大切ではないか。そのためには先進事例で良くなった例を伝えることが必要となる。教員が中立では難しい。教員は統合再編の良さをしっかり伝えて、保護者の背中を押す雰囲気づくりに協力していただきたい。それを基に地域の皆様にどう伝えるかを考えていきたい。

重松会長☞ 同じく当事者である教員がどのように考えているのか、ということや保護者の意見を吸い上げる場である協議会をどう使うのかということも含めて、意見を伺いたい。幼稚園と保育園については、丁寧に説明するという手段をもって検討を進めているので、地域に対してもそれが必要ではないだろうか。

瀬古口委員☞ 奈良市の学校は地域の皆様の支援が整っている学校ばかりである。今は地域の方が学校のために何かしたいという気運が高まる時期だ。その中で統合再編をどう進めるか。地域と交流しながら進めるということについて、多方面からの取組を検討すべきだと思う。

南出委員☞ 高度成長期の時代は、田舎が良いのか都会が良いのか二者択一だった。その頃は右肩上がりの時代で、子どもたちも生き生きとしており、田舎に行っても都会に行ってもきっと良い行き先が見えていると説明していた。現在は世代間で地域への思いにかなりのギャップがある。地域への思いの世代間のギャップをつなぐのは教員か管理職か、誰の役目なのだろうかと常に疑問を感じている。組織の高齢化が進み、婦人会や老人会の解散も相次いでいる。そういった問題を吸い上げられる地域コミュニティが必要となっているのではないかと思う。統合再編に際しても、地域の皆様、子ども、教員、保護者のそれぞれの意見を吸い上げることがやはり大切になってくると思う。

重松会長☞ 適正化の後期計画3年間が終わった後も、市として地域の振興は併せて進めていかなければならない。民間の動向を大切にしながらもそれ

に左右されないきちんとした計画をもつ必要がある。お互いの希望を実現するために手を取りあって知恵を出し合うということが大切になる。そのために、この場の委員の皆様の見解も必要になってくるだろう。今回の会議はここまでとなるが、これからも引き続き協力をいただければと思う。

- 教育政策課長が、本日のまとめと挨拶を行った。
後期計画の姿が少しずつ見えてきた。また、後期計画後の進め方についても意見をいただいた。この意見をもとに後期計画を策定し、学校規模適正化を進めていく。4月からは保護者や地域の皆様に学校規模適正化の趣旨をしっかりと伝えながら、よりよい教育環境の整備のために教育委員会が責任を持って適正化を進めていく。保護者や地域の皆様の意見を聞き取る機会もあったが、子どもの教育環境を少しでも良くしたいという必死な思いが伝わってきた。学校規模適正化は単なる数合わせではなく、子どもの教育環境を整えるという目的を中心において進めていきたい。委員の皆様においては、1年間お世話になり、ありがとうございました。今後も本市の教育事業にご協力をお願いしたい。